

コース14 あまぎさん 天城山

リーダー CL N/S
 実施日 平成29年5月15日(月)～17日(水)
 天候 曇り
 グレード C
 参加者 14人(男性 2 女性 12)
 コースポイント



ポイント	到着時間	出発時間	備考
15日新津駅～川崎		21:50	新潟から高速夜行バス、JRとバスで移動
16日縦走路登山口	11:05	11:15	人工林とヒメシャラが多い自然林の境界道
四辻	11:35	11:35	ヒメシャラとアセビが目立つ
万二郎岳 1,299m	12:35	13:05	昼食、マメザクラがまだ咲いていた
万三郎岳 1,406m	14:40	14:50	記念写真。荒れ道に注意しながら下る
廻沢分岐	16:07	16:07	長いトラバース。白シャクナゲ満開
四辻	16:49	16:49	アセビの赤い新芽、バス乗車時間間に合う
縦走路登山口	17:10	17:40	みな満足顔。日帰り温泉で汗を流し帰路へ
17日新潟駅南口	6:40		駅南で解散

山行等概要(幹事のコメント)

- 曇りの天城、期待していた富士山と大海原に浮かぶ伊豆大島の眺望は利かず残念。さすが百名山と感じられたのは、馬酔木(あせび)やヒメシャラ、丈の高いシャクナゲの群落が多く、また新緑のブナ林に魅了された。
- 万三郎岳に向かう馬の背「アセビのトンネル」では、咲いるアセビで思い思いに写真撮影をした。次に迎えてくれたのは、アマギシャクナゲが、ブナ林の新緑と素晴らしかった。
- 7.9kmを5時間55分、23,000歩の完登でした。山腹を巻き込みながら歩くシャクナゲコースは長く、最終バスの時間に間に合うようにハードな歩きとなった。予定通りに山

行を無事終えたことは、ひとえにみなさまのお陰です。感謝いたします。



2017.5.16 天城 万三郎岳山頂

「天城山に登って」

(1535) I/T

川端康成の「伊豆の踊子」や「天城越え」で有名な天城山に登って来ました。

天城山は伊豆半島の中央に位置する万二郎、万三郎、帚木山などからなっている連山の総称です。

山行計画が行きも帰りも夜行バスというのが心配でしたが、私事ですが、今回が4回目のチャンスなので、どうしても行きたいと思っていました。旅行社のツアーは、1回目は人数が足りず、2回目は天候が悪く中止、3回目のお誘いは、他に用があって参加出来ず、4回目、今回でようやく登ることが出来ました。

15日夜行バスで出発。16日川崎駅東口6:10着。駅前広場でそれぞれ朝食、お腹を満たし今度は東海道線で熱海まで。電車の中で靴を履き替えて乗り換えて、伊東駅9:28着。駅のコインロッカーに着換えや靴を預け、今度はバスで天城高原ゴルフ場まで約40分。平日の通勤ラッシュの中の移動で皆少々お疲れ気味、夜行バスの中の寝不足もありました。

ようやく天城高原ゴルフ場の所から登山開始 11:15。リーダーの菩提寺山より少しきつい位だという話に少々気を取り直して歩きます。

四辻（万二郎岳登山口）を過ぎて1時間位で万二郎岳山頂です。広々とした公園のようです。13:05 昼食後、万三郎岳をめざして出発です。アセビはほとんど終わりでしたがヤシオつつじはまだつぼみ、シャクナゲは綺麗なつぼみ、所々にマメザクラ（フジザクラ）が満開でとてもきれいでびっくりしました。ブナやヒメシヤラなど樹林帯の中は緑もきれいで、絵を書けたらいいだろうなあと思いました。平坦な所は公園のようでしたが、さすが8~9合目の辺りは急登で足も上がらず、後ろから「ファイト」、「頑張れ」などと声が掛かってきて力づけられました。百名山はそう容易く登らせてくれないんだなんて思ったりしました。万三郎岳山頂は到着が計画よりも少し遅れているということで、集合写真を撮って早々に下山です。下山は急坂で荒れているということで心配です。石がゴロゴロ、慎重に



伊東駅前から天城高原までバスで移動



万二郎岳山頂へ



アセビのトンネル



万三郎岳へ最後の急な登り

下ります。所々にシャクナゲの大木が美しいつぼみをつけていましたが、ゆっくり眺めたり、写真を撮ったりもままになりません。涸沢分岐点から四辻（万二郎岳登山口）までの長かった事、だんだん日も傾いて来て足も重く、石がゴロゴロで気も許せず、あと何キロ、あと何

キロとゴールを目指してひたすら歩きました。

天城高原ゴルフ場着 17：10。通算 7.9 キロ、5時間 55 分だそうです。

17：40 のバスで伊東駅へ。駅の近くの日帰り温泉で汗を流し、コンビニで夕食を買い、駅のホームで食べた事は、いつまでも忘れられない思い出になることでしょう。

平日の通勤ラッシュの中、移動にはリーダーは大変ご苦労されたことだと思います。有り難うございました。念願の一座を踏破することが出来ました。ご一緒された皆さんお世話になりました。



万三郎岳下分岐からの登山道



涸沢分岐に向かう急こう配な下りで



いよいよトラバース



アマギシャクナゲ下を歩く